

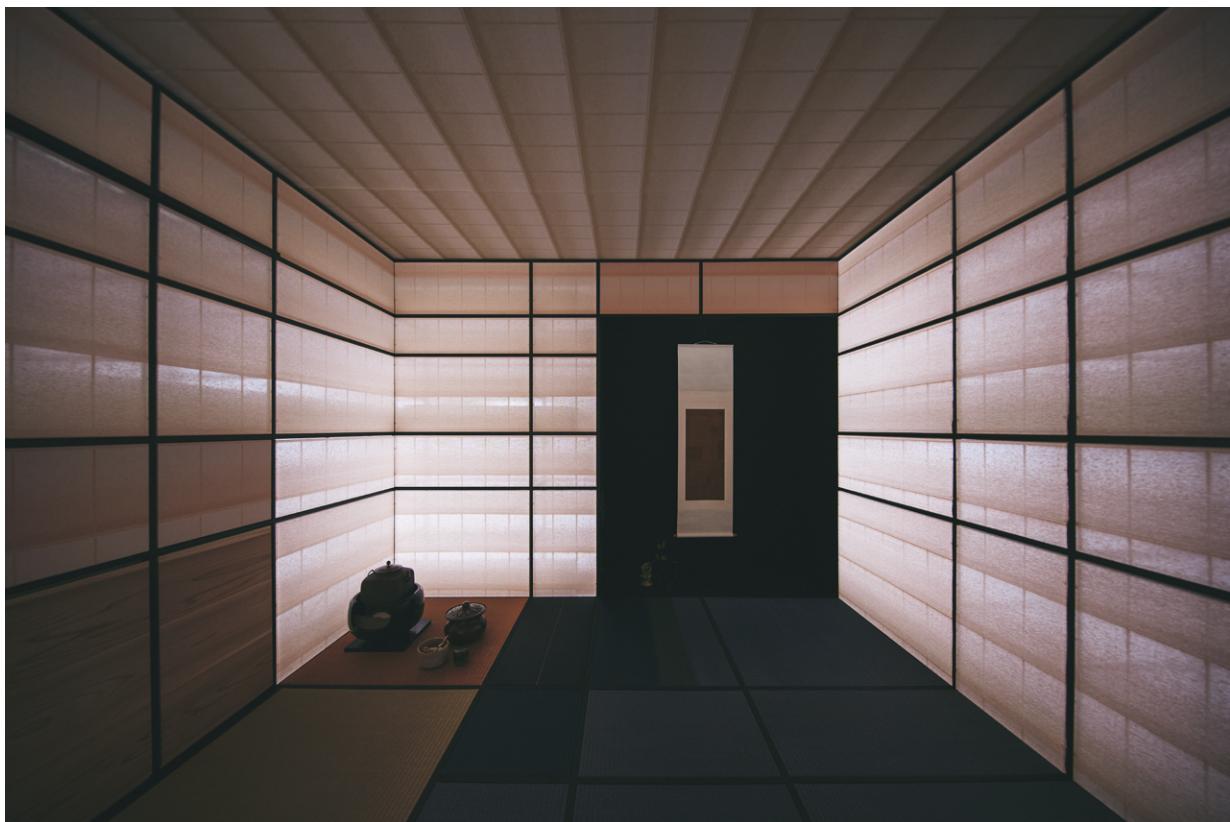
PRESS RELEASE

報道関係者各位

2023年9月吉日

HOSOO GALLERY にて茶室 織庵 公開

会期：2023年9月8日（金）～10月15日（日）



株式会社 細尾（京都市中京区）が運営する「HOSOO GALLERY」は、2023年9月8日（金）より、「Texture from Textile Vol.3 茶室 織庵」と題し、織物による茶室を公開いたします。

織庵は、現代の私たちが認識している茶室とはさまざまな点で異なる特色を持つ茶室です。その中でも特筆すべき点は、織物で囲うことにより、茶の湯のための場を形成している点です。本茶室は、茶の湯文化の現代表現を模索する「茶美会」を主宰する伊住禮次朗氏の協力を得て設計されたものです。伊住氏によると、茶室のルーツの一つとして、空間を囲うことで人々が寄り合う場を形成していたことが挙げられると言います。これらの空間の成り立ちは、襖や障子などの間仕切りによって空間を形成してきた日本建築の特色とも一致します。織庵は、このような「囲い」という茶室の始まりに立ち帰り、織物を起点に現代ならではの茶の湯文化を通じて、空間の在り方を考えることを試みます。

織庵に使われている織物は、「Shoji Fabrics」と題した新作テキスタイルコレクションで、2023年、オランダのテキスタイルデザイナー、メイ・エンゲルギールとHOSOOの協業の中で誕生しました。Shoji Fabricsは、エンゲルギールが日本家屋に見られる「障子」から着想を得てデザインされたものであり、西陣織の伝統的な織りの手法である「紗」の技術を応用した仕上がりとなっています。紗とは、緯糸を織り込む際に二本の経糸をからませ、織地表面に透かし目をつくる技法です。HOSOOでは、和紙糸を使うなど生地の質感も追求しながら、紗の伝統技法を現代的な解釈によって改変し、独特の透け感を持った紗に仕上げています。

そして、織庵におけるもう一つの重要な点は、現代の規格品のフレームを用いて茶室の骨組みを構成している点です。寸法は、千利休の時代に定められた伝統的な茶室の寸法・比率を僅かに崩す条件となり、定式化された茶室に微細な揺らぎをもたらしています。これらの骨格は、解体し、再度組み上げることが可能であり、「組み立て茶室」としての流動的な機能性も有しています。

織庵は、紗がもたらす独特の透けによって、空間を完全に分断するのではなく、茶室に内と外を緩やかにつなぐ流動性をもたらします。また組み立てることで場を形成するという軽やかさがあります。織庵を通じて、伊住氏はこれらの流動性を、「数寄=透き」の一つとして解釈し、常設の茶室とは異なる場における茶の湯の可能性を探究しています。

HOSOO GALLERYでは、これまでに、リサーチシリーズ「Texture from Textile」の活動を通して、織物を題材に空間を捉え直す実践的な取り組みを継続してきました。織庵は、これらの活動の流れを汲み、茶の湯文化を一つの手がかりとしつつ、現代、そして未来へ、織物から派生する多様な文化の発展について考察を深めていく所存です。

会期中、HOSOO FLAGSHIP STORE 1F「HOSOO LOUNGE」では、週末限定（金・土・日曜日）で、HOSOOの工房がある西陣にて百有余年に渡り京菓子をつくり続ける御菓子司「塩芳軒」に、本展のために特別にお作りいただいたオリジナルの和菓子をお楽しみいただけます。また、事前のご予約にて、織庵内でもお召し上がりいただけます。アート鑑賞の余韻とともに、静謐な空間でいただくお茶の時間をご堪能ください。

「Texture from Textile Vol.3 茶室 織庵」

会期：2023年9月8日（金）～10月15日（日）

会場：HOSOO GALLERY

〒604-8173 京都市中京区柿本町 412 HOSOO FLAGSHIP STORE 2F

Tel：075-221-8888

会館時間：10:30 - 18:00 ※入場は閉館の15分前まで

入場料：無料

URL：<https://www.hosoogallery.jp>

主催：株式会社 細尾

設計：SUO

Color direction：Mae Engelgeer

協力：伊住禮次朗（茶美会主宰） 株式会社 Tesera 井高久美子

写真：田中恒太郎

宣伝美術：森田明宏

リサーチ：HOSOO STUDIES

ディレクション：細尾真孝



伊住禮次朗

裏千家 16 代家元坐忘斎の実弟・伊住宗晃の二男。茶名宗禮。裏千家茶道を修めると共に、茶道史や工芸史の研究者としても活動しています。京都造形芸術大学大学院芸術研究科芸術専攻を修了し、博士（学術）取得。堺市博物館学芸課（非常勤）勤務を経て、現在は茶道資料館副館長・今日庵文庫長、裏千家学園副校長、NPO 法人和の学校理事長、茶美会文化研究所主宰。裏千家茶道を中心とした様々な領域で活動を展開しています。

Mae Engelgeer メイ・エンゲルギール

高校時代からアムステルダム・ファッショント・インスティテュート、サンドバーグ・インスティテュートに至るまで、テキスタイルデザインを中心に学ぶ。2013 年に自身のスタジオを開設して以来、工芸に対し興味を抱き、テキスタイルの制作において、過去の技術を現代的に昇華させてきました。エンゲルギールの作品には、絶妙なカラースキームやパターン、線形要素が含まれており、それらの要素の複雑な構成は見事に融合し、調和を生み出します。自身のコレクションの制作に加え、アートディレクションや大規模なインсталレーションやパブリックアートといったプロジェクトを、世界的ブランドと展開しています。

HOSOO

細尾は元禄元年（1688 年）、京都西陣において大寺院御用達の織屋として創業しました。京都の先染め織物である西陣織は 1200 年前より貴族をはじめ、武士階級、さらには裕福な町人達の圧倒的な支持を受けて育まれてきました。細尾は今、「帯」や「きもの」といった伝統的な西陣織の技術を継承しながら、革新的な技術とタイムレスなデザイン感性を加えることによって、唯一無二のテキスタイルを生み出し、国内外のラグジュアリーマーケットに向けて展開しています。